

生涯学習

No.530

かおり高い
文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

諏訪湖の顔色

諏訪湖漁業協同組合 組合長 武居 薫

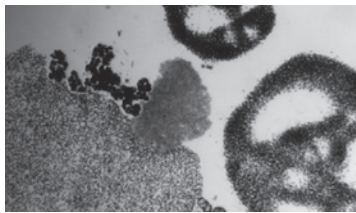


今年は5年ぶりの御神渡りで、多くの人が湖面を見つめ、結氷した諏訪湖が静かなたはずまいを見せていました。見た目には「きれいに」なった諏訪湖ですが、まだそして新たな多くの課題を抱えています。

私達は顔色の良し悪しで健康状態をはかります。諏訪湖も「顔色」つまり「湖の色」を見ると、健全かどうかはある程度わかります。湖の色は時期に応じて周期的な変化を見せてくれますが、この頃はワカサギの大量死など変化の激しい最近の生態系を反映して、毎年違った様子

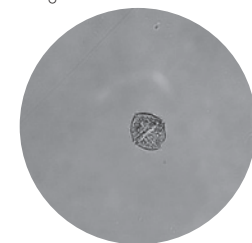
を示すようになってきています。

湖の色は主に植物プランクトンによって決まります。プランクトンは栄養分や透明度などといった水質の影響を魚や貝に比べれば直接的に受けます。種類別におおまかに示すと、藍藻(らんそう)類は夏の「アオコ」に代表される緑色、珪藻(けいそう)類は春や秋にみられる褐色、緑藻(りよくそう)類は藍藻類より透明感のある緑色で主に寒い時期に見られる、というのがこれまでの諏訪湖の一般的な色でした。



昔のアオコ (粒状の固まり)

最近アオコの色が幾分白っぽ



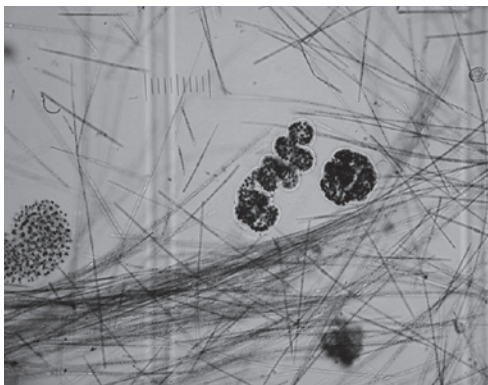
鞭毛藻類の1種 (淡水赤潮の原因種、毒素を出します。大きさ0.05mm)

く見えるように感じることはないでしょう。顕微鏡で見ると、

以前のひどかった頃と比べてアオコそのものの種類は違ってきており、このことが湖の色の違いを生じさせています。これまでだと季節によってガラッと違っていった水の色が、珪藻類や緑藻類が一年中長期に亘って出ていて、いつまでも褐色を示したりするようにもなっています。

魚類大量死の後、プランクトンの出方にも変化が生じていたことが保健所等の調査結果から明らかになっています。釜口水門からの放流水を見るとよくわかるのですが、一年中黄色味がかっています。アオコなどに比べると発生数は少ないのですが、鞭毛藻(べんもうそう)類とい

う種類がいつも出るようになってくるからです。この種類は多くの湖で「淡水赤潮」として問題を起こしてきました。過去には相模湖で魚が死んだ例があり、一昨年の魚類大量死の時にも同じ種類が確認されていました。最近の諏訪湖には気がかりなことが多く、湖の変化に最も敏感な微小生物たちの動向を湖の顔色からうかがう、簡単な方法ですのでぜひ関心を持って観察してみてください。



今のアオコ (小さい粒や針状、らせん状のもの)

身近な植物のくらし

すみれのお話

湖畔町北 杉山 清



山路来て なにやらゆかし すみれ花 芭蕉

これは、芭蕉が古の三関の一つ逢坂の関の山越えの道で詠んだといわれています。時期が旧暦で三月末、今の暦でいうと五月中旬ということですが、峠越えの山道で芭蕉が出会ったすみれは何というすみれなのか興味を持たれるところです。時期からして最もポピュラーなタチツボスミレではないかと思いますが、



ヤツガタケスミレ

タチツボスミレは群落を作り、まとまって咲いていることが多いので、ひっそりと一輪樹下に咲いているとすれば、ヒナスミレとかヒカゲスミレなのかもしれません。

それはともかくスミレには、実に様々な種類があります。また、交雑をしてさまざまな変種ができて、外国から入ってきたものもそれに加わり、実に多種多様です。そのようなスミレを仲間分けすると、花茎が葉茎の途中から出るもの（有茎種）と花茎が根本から出るもの（無茎種）とに大きく分けられます。長野県はスミレの種類が特に多く、諏訪にも八ヶ岳の高山帯に

あるヤツガタケスミレやエイザンスミレとヒカゲスミレの雑種であるスワスミレなど諏訪にちなんだ名前ものなどさまざまな種類のスミレがあります。スミレの花は可憐な美しさで人を引きつけますが、そればかりでなくそのくらしに目を向けると興味深い点があります。そのいくつかを紹介したいと思います。



タチツボスミレの開放花

植物は仲間を増やすために種子を作りますが、種子の作り方にスミレの仲間は二種類のの方法をとっています。一つは、春先の花を咲かせ昆虫の力を借りて他の個体の花粉をめしべにつけて変化に富んだ種子を作るといいう方法（他家受粉）と、もう一つは夏から秋にかけて閉鎖花と

いう蕾のような状態の開かない花をつくり、その中で自分の花粉をめしべにつけて種子を作るという方法（自家受粉）です。



ヒカゲスミレの閉鎖花

なぜこのような二つの手段を持つかといえば、一つには他家受粉でさまざまな環境の変化に対応できる子孫を残すためと、もう一つは自家受粉で確実に子孫を残すためだと考えられています。植物は動けません。それだけにこの動けないというハンディキャップを克服し、生育環境の変化にも対応するためのさまざまな生き残り戦略を持っています。

スミレを観察すると、石垣のすき間のようなところに咲いていることがあります。なぜあ

身近な自然と共に

ようなところといえ、ここにもしたかなスミレの戦略が隠れています。スミレの種子を調べると、そこにアリの好む物質がくっついてあります。アリはそれをめあてにスミレの種子を巣に運びます。このため、種子は、アリによって遠くに運ばれるわけです。スミレはアリの好む物質を提供し、そのかわりに種子を運んでもらっているというわけです。

スミレと他の生き物との関わりといえば、他にスミレの葉をえさ（食草）とするツマグロヒョウモンという蝶がいます。ツマグロヒョウモンは本来暖かい地域の蝶で、以前は諏訪では見られませんでした。温暖化のためかどうか分かりませんが、最近では普通に見られるようになってきました。

初夏にかけて、スミレの仲間であるパンジーをプランターで育てていると黒い毛虫が付くことがあります。これがツマグロヒョウモンの幼虫です。成長が早く、黒くてトゲトゲのある幼虫からきれいなラメがついてい

るような蛹へと変化が楽しめます。また、幼虫から蛹を経て羽化するまでの期間が短いので観察するのに好都合な蝶です。ヒョウモン柄の縁（つま）が濃い紫色（雄）になっているので、ツマグロヒョウモンと名付けられている美しい蝶です。五月から六月ぐらいの時期に注意して辺りを見てみると、飛び回っているのを観察できます。運がいいとパンジーやスミレの葉に幼虫を見つけたことができます。見つけたら是非育ててみてはいかがでしょうか。子どもたちの一研究にも向いていると思います。身近な植物に目を向けると、そこにさまざまな興味深いところがあります。その一端を紹介しました。



閉鎖花でできた種子

教育委員会からのお知らせ

自然観察会 ～ガイドと歩く夏の八島湿原～

八島湿原は日本最南の高層湿原です。夏のさわやかな高原を、ガイドの説明を聞きながら歩いてみませんか。ヤナギランやアザミの仲間など華やかな花に出会うことができます。

開催日は、「信州山の日」（7月の第4日曜日）です。

日時：7月22日（日）午前8時30分～午後2時30分ごろ

※午前8時20分、総合文化センター前集合（貸切バスで移動）

定員：80名

コース：八島駐車場～八島湿原一周～八島駐車場（予定）

※昼食は各自でご用意をお願いします。（食事処を利用することもできます）

内容：自然観察ガイドの説明を聞きながら、八島湿原を一周します。高層湿原特有の植物を観察して歩くのも楽しみです。

参加費：500円（保険料・資料代）

申込み：参加費を添えて、7月13日（金）までに直接下記窓口へお越しください。

問合せ：下諏訪町教育委員会／生涯学習係（文化センター内）27-1111（内線718）

下諏訪町産業振興課／観光係（町庁舎2階）27-1111（内線272）

※詳しい内容については、班回覧のチラシをご覧ください。



社会教育委員会への諮問と教育長への答申

【教育長諮問】

公や地域、家庭が連携して、子どもの内面に「感謝」や「思いやり」の心を育てていくための環境づくりはどうあったらよいか。

答 申 書

I はじめに

町教育委員会が目指す教育目標は、「薫り高い文化のまちづくり」と「創造力に富む人づくり」の二点である。その達成に向けて、社会教育委員として、個とグループ、子どもと大人、親と子、家庭と社会、ものと人、ことと人などを有機的につなげ、紹介し、広げ、深め、発展させ、共々に育っていく教育的・社会的環境を構築していくこと、特に「次代を担う子どもは町の宝」のキャッチフレーズのもと、子どもが育つ明るく健全な「まちづくり」と「人づくり」を構築していくことが最終目標である。

今回、子どもの可能性や生まれながらにして持っているその子の良さや特性（個性）を見出し、尊重し、共有し、親も子ども周囲も共々に育っていくための関わりの在り方について、「公や地域、家庭が連携して、子どもの内面に「感謝」や「思いやり」の心を育てていくための環境づくりはどうあったらよいか」について検証を進めてきました。

II 提 案

「感謝」や「思いやり」の心は、他者への意識や理解があった上で、関わり合いの中から自然発生するものであり、特に「感謝」は、自分より立場が上だと思ふ人へ感じる事が多く、下だと思ふ人へ感じる事は少ない。逆に、「思いやり」は、自分より下の立場だと思ふ人に対する言動はあるが、立場が上だと思ふ人に対する言動は起こりづらと考えられる。このような点から、学校教育の中でも感情や言動として生まれるものではあるが、関わる世代にも限りがあり、社会教育の場ではより生まれやすいのではないかと考えられる。社会教育は学校外での学びの場であり、地域や町の行事などによって、より多くの世代との交流や関わりが生まれている。

「感謝」や「思いやり」の心を持ってほしいのは誰もが願っていることだと思ふ。しかし、その心は、“何かをしたから育つ”というものは、人それぞれに価値観や受け止め方も違ふため、根本的に難しいと考えられる。そこで課題として考えていく中で、やはり必要となってくるのは行事に参加することだと思ふ。

そして、必要となる現場見学やアンケート調査、意見交換などを行い、検証を進めていくと、地域や町の行事に参加し、学年を越えての交流や、多くの世代との交流が、子どもの内面に「感謝」と「思いやり」の心が育つきっかけとなるとの認識を深めました。

このことから、以下の提案をもって答申とします。

《提案》

多様な地域や町の行事に、多くの子どもたちが参加できる環境を整え、学年を越えての交流や活動、多くの世代との交流や関わりが生まれるまちづくりを進める。

III おわりに

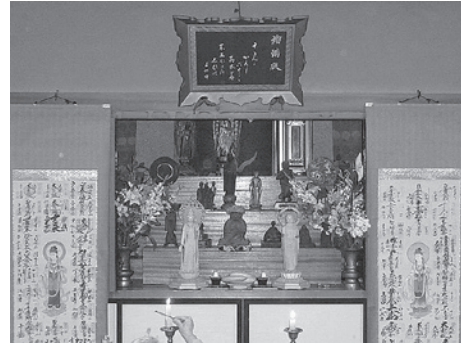
将来に向けて、子どもが社会的・精神的・職業的に自立していくためには、家庭教育を中心とした、公や地域の適切な関わりによる望ましい環境づくりが必要である。望ましい環境づくりのためには、子どもを取り巻くそれぞれの環境、「人との関わり」「ものとの関わり」「こととの関わり」の、それぞれの機会を通して体験的に学び、子ども自身が社会の一員としての自覚と責任を身につけ、他と協調しながら、自己を律しつつ、周囲の人やもの、ことへの感謝や思いやりの気持ちをもって、自主的・創造的に育っていくよう支援していくことが求められる。

社会教育委員として、次代を担う子どもが育つ、明るく健全な「まちづくり」と「人づくり」を構築していくための支援を今後も進めてまいります。

歴史の町下諏訪。各区に眠っているお宝を、地元の方に解説していただきました。

高木公民館安置の「高木薬師堂」

高木 小口 明



公民館安置の「高木薬師堂」

高木公民館内に、三百年來住民が健康長寿の念仏を唱え、祈願した、本尊薬師如来像、両脇に日光月光菩薩像、眷属の十二神将像を安置、下段には住民寄進の石の薬師如来像等仏像や仏画を飾り、多くの仏具を納めた「諏訪百番霊場西二十五番高木薬師堂」がある。江戸末期選定という百霊場は郡内寺院七十、集落の堂三十を選定。このうち下諏訪では六霊場を選定。高木薬師堂以外はすべて寺院(跡地)。高木薬師堂の評価は、古くから高かったらしい。

高木薬師堂は三百年昔の藩作成「一村限絵図・高木村」に牛頭天王(津島社)前にあり、寺院のない村人の熱望で、創建はそれ以前と思われる。以後記録によると、一度東高木に移したが、不信心者による不祥事続発。再び津島社境内に戻し、念仏場・宗門受け場としても活用されている。

一時堂守も置いたが、この男が霊験あるご本尊を持ち逃亡。困った住民に、温泉寺の和尚が薬師如来像のかわり(現存)を贈ってくれて堂は存続。維新後は高木学校併設。それが町学校に併合後は、区集会所としても併用、



十二神将像

津島社社務所併設として旧天狗社跡地に新築した。薬師堂は外から参拝できるように正面に作られ、以来毎月八日の念仏講もそこで継続、参加区民も数十人と多増、戦後まで続いた。だが昭和三十年代状況は変わり、薬師堂は公民館改修の度に隅に追いやられ、一般公開は、ついに十人余となった毎月八日の念仏講の時だけ区役員さえ、この貴重な文化財の由緒を知らない人が多い現在だ。ただし、今年五月から薬師堂は他所へ仮住まいをしている。それというのも秋の完成を目指して、公民館改修工事だからだ。

「区先人の思いが残る文化財。多くの住民が拝観できるように工夫、改修したい」という役員の方々の言葉に期待したい。そうなったら是非多くの方々の参拝をと願っている。



現在も続いているお念仏講

しもすわ人形劇まつり 2018

日時：7月7日（土）午後1時30分～午後4時00分

7月8日（日）午前10時00分～午後12時30分

会場：下諏訪総合文化センター 小ホール ほか



入場料：高校生以上 500円（2日間有効）

中学生以下 無料

★チケットは、下諏訪総合文化センター窓口でお求めいただけます。

〈問合せ先〉 下諏訪総合文化センター ☎28-0018

町民大学 ー 下諏訪を学ぶ ② ー

演題：『大相撲 地方巡業の楽しみ方』

講師：鈴木 ゆか（荒汐部屋おかみさん）

日時：7月29日（日） 午後1時30分～午後3時00分

会場：文化センター集会室 ※当日受付可（受講料100円）



8月6日（月）に「平成三十年夏巡業 大相撲諏訪湖場所」が開催されます。この機会に、荒汐部屋おかみさん、鈴木ゆかさんをお招きし「大相撲地方巡業の楽しみ方」と題して講演をいただきます。当日は、荒汐部屋力士も参加する予定ですのでご期待ください。

お問い合わせ ☎28-0002（生涯学習係）

7月6日

小学生の頃、虫を捕まえることが大好きだった。そして虫を捕まえるアミや虫かごは大事な道具だった。

色々な虫を捕まえたが、中でもオニヤンマやギンヤンマ、カラスアゲハやアオスジアゲハなどは特別で、見つけるとすぐドキドキして、捕まえることができたときのうれしかったことを鮮明に覚えている。

家のまわりで一日中鳴いていたセミもよく捕まえたが、鳴き声が特に好きだったヒグラシはついに捕まえることができなかったことも覚えている。昔は多くの種類の虫がいた。近くの田んぼをのぞいてみると、ミズカマキリなどの水生昆虫が、諏訪湖のほとりに行けばヤゴがいた。どれも見つけて捕まえるときは、とてもワクワクしたものだ。大人になってからは、魚を釣ることが大好きである。そして、竿やリールや疑似餌は大事な道具だ。色々なマスを釣ったが、その中でもブラウントラウトやアルビノは特別で、魚影を見つけるとドキドキして、釣ることができたときの喜びは最高だ。きつと私だけではない。生きものを見つけて、それを捕まえることが好きで、そのための道具を大切にしている人は。

しかし、前の夜から気持ちが高ぶっていて、寝ることができずに朝を迎えたことがあるほど好きな釣りに、最近は行っていない。これはいかん。

（武居 淳彦）